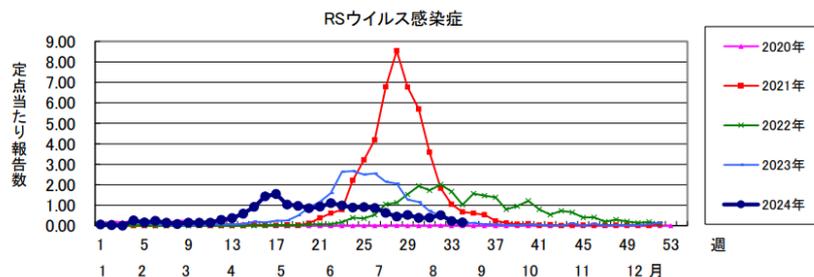


千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ/ニルセビマブ投与について 2024年～2025年シーズン（第4報）

千葉県内と近隣都県のRSウイルス（RSV）感染症流行状況を考慮して、「千葉県RSV感染症予防・対策検討ワーキンググループ」は、2024～2025年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ/ニルセビマブ投与について以下を提案する。

- 2024年8月中旬以降、全国的なRSV感染症の流行は終息しつつある。2024年第33週分（8/12～8/18）の全国定点当たり報告数は0.73であり、1.0以上の地域は、東北、甲信越・北陸、中国、四国、九州となっている。（<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>）
- 千葉県内においても、2024年第34週分（8/19-8/25）の県全体のRSV感染症の定点当たり報告数は減少し0.17であり、3週連続で減少しており（0.52→0.23→0.17）、依然患者発生は認めるものの、全体として流行の終息が見込まれる。なお、患者報告のあった保健所数は16保健所中8か所（野田、柏市、松戸、市川、船橋市、千葉市、印旛、海匝）、定点当たり1.0以上の保健所は1か所（海匝）となっている。
- 近隣都県（一都二県と茨城県）では、2024年第33週に茨城県のみ増加した。茨城県（0.55→0.70）、埼玉県（0.61→0.31）、東京都（0.40→0.22）、神奈川県（0.29→0.21）。なお、定点当たり1.0以上の都県はなかった。
- 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回以内を目安に投与することを本ワーキンググループは提案している。また、ニルセビマブについては、1シーズンあたり1回投与である。上記の流行状況から2024年～2025年シーズンにおいて、本ワーキンググループが提案した2024年4月からパリビズマブ投与を開始した場合、2024年10月を今シーズンの投与終了の目安とする。なお、今後の流行状況により、終息に向かわない場合は7回を超える投与を検討する。ニルセビマブを今シーズン投与した児に対しては、パリビズマブの追加投与は行わない。
- 2024年5月以降に出生したパリビズマブ適応児に関しては、地域の流行状況や児の感染重症化リスクを鑑みて、2024年10月に投与を終了せず、児の病状や養育環境などを考慮し、流行の終息が確認できるまで7回以内を目安に投与を継続しても良い。

A: 定点当たり報告数



2024年9月3日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県RSV感染症予防・対策検討ワーキンググループ

石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 大森俊 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦
戸石悟司 西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直